子育て支援と大学教育
ー学生参画とトランジションー
－聖徳大学学術研究高度化推進事業社会連携研究推進事業『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究　平成17～21年度研究集録』より－

２０１９年３月１７日　聖徳大学生涯学習研究所

シンポジウム「大学における生涯学習の未来を考える」

聖徳大学兼任講師　西村美東士

（板橋区大原生涯学習センター社会教育指導員）

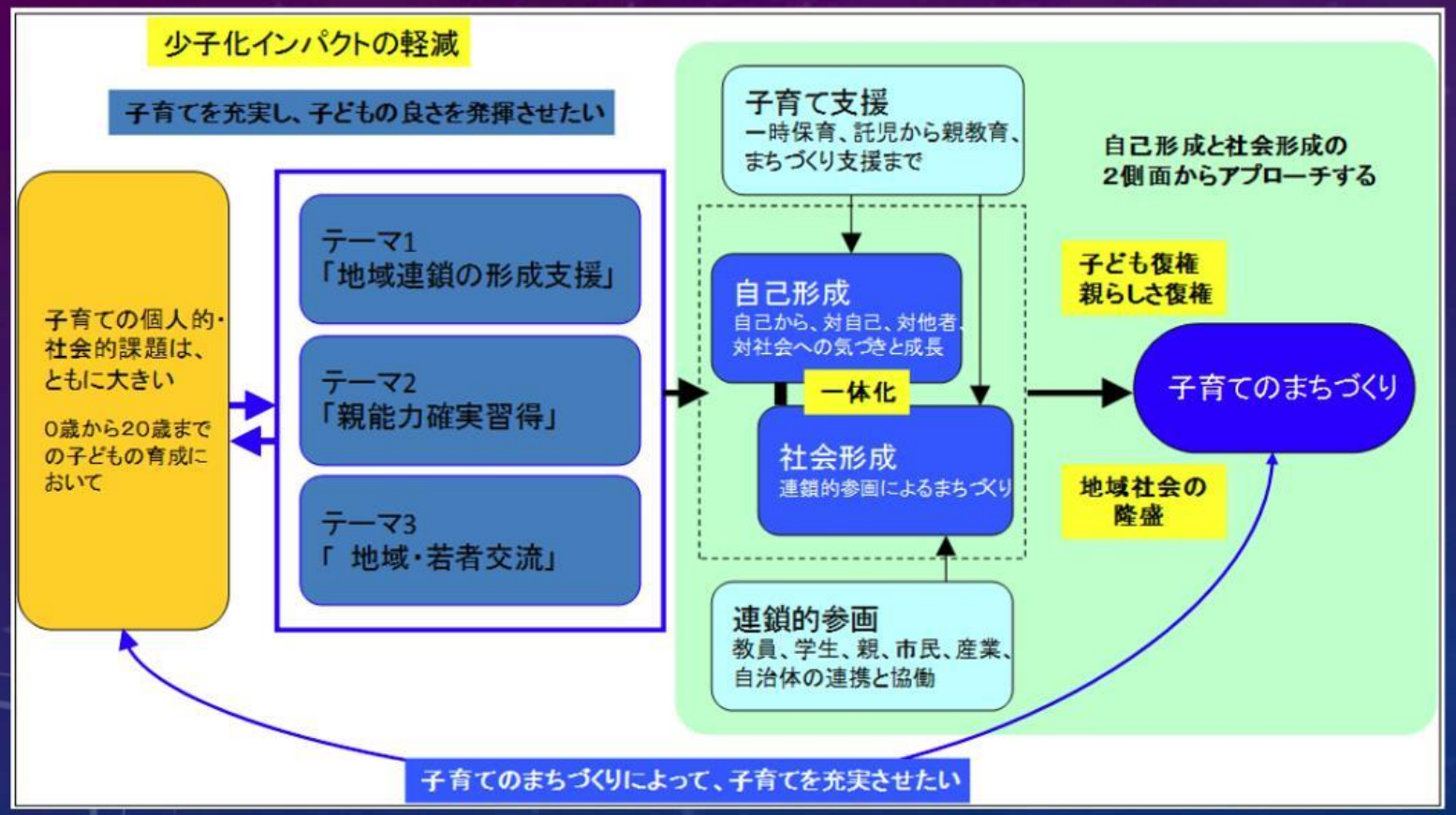
トランジションへの注目

- ✓西村みとしHP→自著データベースの公開→トランジション
- ✓トランジション＝学校から社会へのスムーズな移行
- ✓人事領域においては、キャリア発達の過程で注目され、人に大きな変化をもたらす重大な局面（クライシス）であると同時に、それまでの経験を見直し、新しい選択肢や変化をもたらす転機でもあるとされる。
- ✓溝上氏は、トランジションとの関係を明らかにする必要を説く。単に就職できたかどうかではなく、就職後の適応状況を見なければならないと言うのである。調査結果からは、とくに大学１・２年生時におけるキャリア意識及び自主学習や主体的な学修態度が組織への適応に結びつくことが明らかになった。クラブ・サークル活動やアルバイトによる「豊かな人間関係」については、「良好な友達づきあい」以上の質が求められ、異質な他者からの影響が大きいことが示唆された。なお、「勉学第一」とした者は良い結果にならなかった。

本研究の概要

自己形成と社会形成の一体化
聖徳大学平成17～21年度『連鎖的参画による子育てのまちづくりに関する開発的研究』より

研究紹介

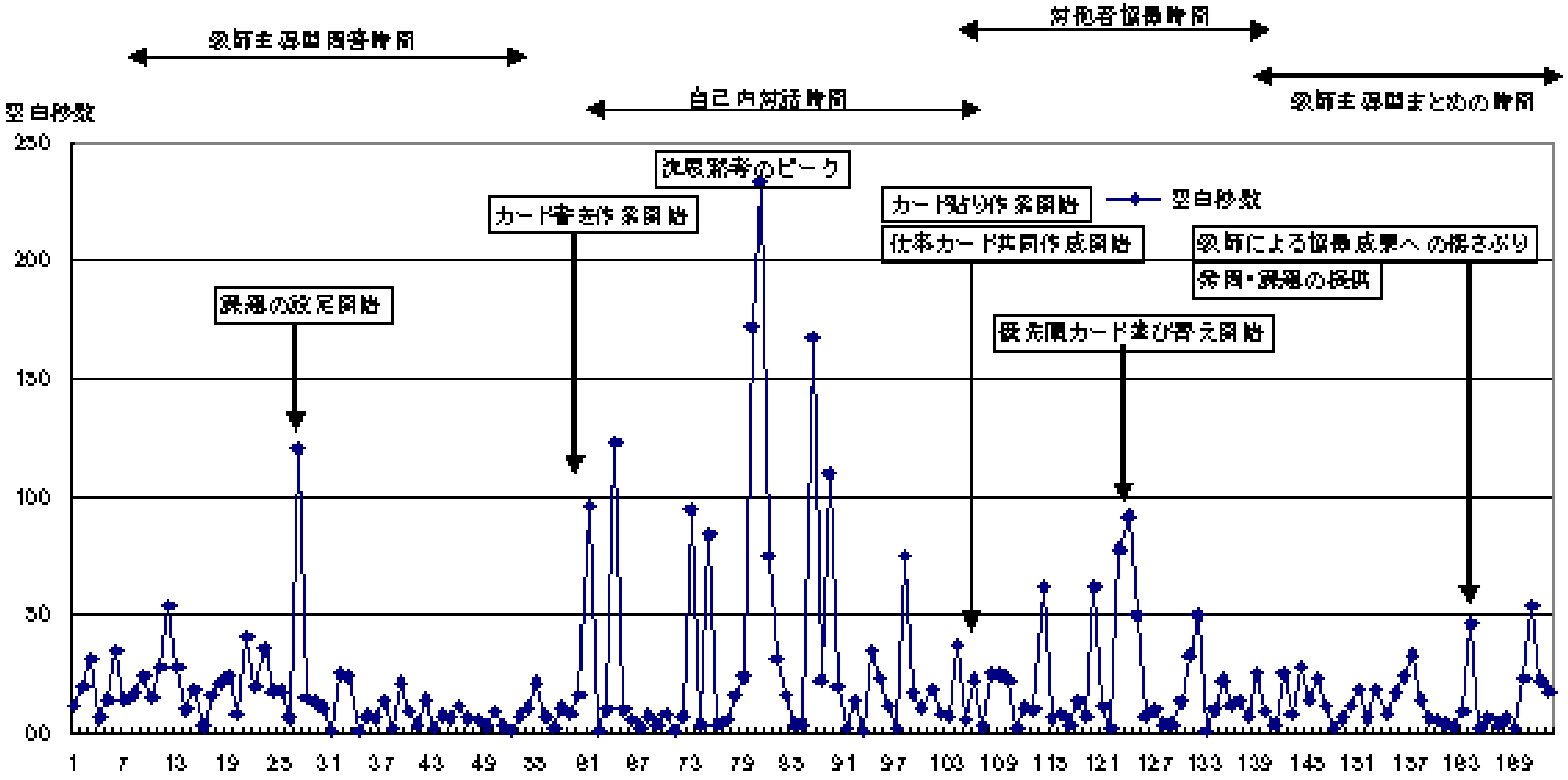


行政まかせ、専門機関まかせの住民ではなく、まちや社会の主人公としてプライドを持ち、その姿を子どもたちに示すことのできる住民像を実現する。

クドバスチャート「出産自己決定のための必要能力」

	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5	能力-6
1　夫や親と協力する	1-1　A	1-2　A	1-3　A	1-4　B	1-5　B	1-6　B
	不安を乗り越えて出産を決断できる	夫婦げんかをしないで仲良くすることができる	夫と子育てを協力することができる	夫に自分の体調を理解してもらえる態度がとれる	自分の親に協力してもらえる態度がとれる	舅姑とうまくやっていく態度がとれる
	1-7　C	1-8　C	1-9　C			
	妊娠を望まないときには避妊するよう夫にお願いできる	夫に家事を手伝ってもらうことができる	夫の会社の育児休暇がどれくらいあるか知っている			
2　お金を管理する	2-1　A	2-2　A	2-3　B	2-4　C		
	出産・育児に必要なおおよその費用を知っている	出産に関する補助金を知っている	子どもができても家計をやりくりできる	夫が仕事を辞めないように励ますことができる		
3　体調を管理する	3-1　A	3-2　B	3-3　B	3-4　C	3-5　C	
	妊娠や出産に関する病気について知っている	何が母子の体にとって良いか悪いか知っている	自分や相手の病気に立ち向かう態度がとれる	自分の情緒を安定させることができる	出産後もスタイルを保つことができる	
4　出産に必要な情報を得る	4-1　A	4-2　B	4-3　C			
	妊娠のシステムについて知っている	出産に必要な書類作成や手続きができる	胎教にいい曲を知っている			
5　子育てに必要な情報を得る	5-1　A	5-2　B	5-3　B	5-4　C	5-5　C	5-6　C
	母としての自覚を持ち、責任を持ってわが子の世話ができる	家に最も近い産婦人科を知っている	料理がうまくできる（子どもの成長に合ったものが作れる）	子育てのために体力トレーニングの方法を知っている	階段などの危険な場所を知っている	赤ちゃんの服などを売っている所を知っている
6　地域で暮らす	6-1　A	6-2　A	6-3　B	6-4　B	6-5　C	6-6　C
	育児に関する相談窓口を知っている	自分の周りの子育て経験者から子育て情報を得ることができる	育児に関する公共機関・施設を知っている	相談できる友人を探すことができる	交通の便が良い所に住むことができる	近くに良い公園を知っている

教師の指導内容と空白時間－自己内対話とワークの深化



子育て学の体系化－学問をつくりだす学生たち
社会開放型子育て観への転換とトランジション

■テーマ群・・関連学問と関係付けながらアプローチする。

子育て支援の社会化
行政の支援のあり方

保護者の参画
官民連携

子育てまちづくり
格差拡大・プアーチャイルド
子育て商品開発

食育、給食、絵本、読書
親子のストレスと心の病い
障害児の子育て

子育て・子育て学習の構造
コミュニケーション力の欠如
親力低下問題

震災復興、PTSD

■理念研究

■歴史研究

子育て学の学的体系

■研究方法・手法群

文献研究
フィールドワーク
実験研究
アクションリサーチ
調査法、インタビュー、アンケート
ケーススタディ
ワークショップ・討議

■関係する学問群

体育学、レクリエーション学

小児保健学、生理学、小児医学、地域保健学、母子保健学、母性看護学

食育、成長発達、栄養改善学コミュニケーション学、人間関係学

発達心理学、教育心理学、障害児心理学、家族心理学、教育相談学、カウンセリング学
教育社会学、子ども社会学

社会福祉学、障害者福祉学、子ども家庭福祉学、司法福祉学

都市計画、建築学、子育て環境、子ども環境学、ユニバーサルデザイン、安全教育

「親の自己形成」と「子育ての社会形成」の両面からのアプローチが必要である。

生涯教育学、産業教育学、社会教育学、教育経営学

教材、玩具、遊具等

しつけ学、倫理学、愛情学、ジェンダー学、保育学

行政参加、行政学、市民活動、ボランティア学、NPO学

■分野・領域・研究対象

親、親同士の関係、母と父
子ども、子ども同士の関係、友達
家族、親子関係、兄弟、親戚
地域、まち、家族

公民館、地域センター、図書館、博物館、青少年相談、少年センター、児童福祉センター、保健所、少年院、サポートセンター
学校(幼少中高大)、保育園、学童保育、児童館、青年の家、塾、専修・各種

クラブ、団体、NPO、子ども会、青少年団体

子育て支援センター、センターオブセンター
病院、産婦人科、小児科、心療内科